



薩長土肥フィールドワーク



県が企画した「薩長土肥フィールドワーク」に参加した生徒の感想を紹介します。

吉永真唯さん（2年生・陵南中学校出身）



私は鹿児島県が企画した「薩長土肥フィールドワーク」に参加しました。これは、幕末に新たな時代を築いた薩長土肥の4県の高校生が坂本龍馬ゆかりの地・高知に集まり、高校生目線で平成の次の時代に必要な社会のあり方を考え、フォーラムで発表するというものです。

11月9日（金）～11日（日）、県内の高校生4名と高知に行きました。私はもともと歴史に興味があり、他校生と交流したくて参加しました。

10日（土）に「坂本龍馬記念館」に行きました。龍馬の手紙が展示してありましたが、姉にはひらがなで、男性には漢字で書いていて、ユーモアがあり、大変魅力のある人だなと思いました。次に桂浜に行って、龍馬の銅像（13m）の隣のやぐらから海を眺めました。龍馬も眺めた雄大な海を見てるとこみ上げてくるものがありました。それから、高知城歴史博物館でグループワークをし、これからの社会のあり方について話し合いました。私たちのグループでは、「現代はAIが発達し、それに頼りすぎてしまって、人との面と向かったコミュニケーションが足りないのではないか。そこで、①（今回のフィールドワークに参加したように）同じ年代の人と積極的に交流しよう。②人間関係の原点に戻ろう。まずは、友達と会ったときにはスマホを使わないようにしましょう、ということを話し合いました。そして、11日（日）フォーラムで発表しました。

フォーラムでは、様々な視点で4県の高校生の発表がありました。次世代への提言（そのために実行すること）では、①予期せぬことを予測する。（環境変化や災害など様々なことを想定し、避難訓練や地域のボランティア活動に参加し、意識を高めます）②豊かな思考力を常に持って、自分から行動を起こせる社会を作る。（受け身の授業にならないように、授業に積極的に参加します）③「教育・医療」などの人との関わりや人との信頼を必要とする職はITに頼らず人間が行う。（地域の人々同士の関わりや支え合いの場を自分たちで作ります）など、積極的に発表し、勉強になりました。

今回のフィールドワークに参加して①幕末・明治維新の偉人たちの国を思いは現代にも通じるものがある、②偉人たちは身分の差を超えて自分の信念を貫いた。グローバル化が進む中で、相手の主張も聞きながらも自分の意見をしっかり述べるのが大切だ、ということを感じました。



